

趣味の話

～聖地巡礼(前編)～『シン・エヴァンゲリオン劇場版』～

弁理士 中川 裕幸

今回は数回、鉄道(乗り鉄)趣味のおまけで行っている『聖地巡礼』について書かせていただきます。皆さんご存じのように、日本で『聖地巡礼』とは、自分の好きなコンテンツの舞台となった現地を訪ねる行動のことで、私のような乗り鉄にとっては、それをネタに鉄道に乗りに行けるため、親和性が高いイベントでもあります。今回は、私の自分の人生の半分を通して影響を受けた『新世紀エヴァンゲリオン』の聖地巡礼を回想してみたいと思います。

(1) 序：TVアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』と『シン・エヴァンゲリオン劇場版』

同TVアニメが放映されたのは1995年で、平日夕方だったのでアニメ仲間からの評判を聞いて録画して見ていたように思います。当時、単純に面白い！と思っていたのですが、最終25話、26話については理解できず、私も多くのファンと同じで「庵野監督が話をまとめきれなかったので、苦肉のエンディングとした」説を信じていました。

そして、2021年コロナで社会が停滞していた時期に公開された、映画『シン・エヴァンゲリオン劇場版』です。正直、数年前の前作『エヴァンゲリオン新劇場版：Q』が暗かったので全然期待せず「26年間のケジメだしなあ」ぐらいの感覚で、公開2日目の土曜のレイトショー上映を家族で見に行きました。…ところが、それはそれは衝撃的な作品でした。上記TVシリーズ25話、26話の庵野監督の言いたいことが丁寧に説明されたものだ、と感じ、四半世紀を経て庵野秀明の凄さをようやく理解した！という感想でした。平たく言うと「なんだ、庵野は26年も前に同じことをやってて、こちらが幼く(30過ぎてましたが(笑))、わからなかっただけだったんだ」と思いました。なお、さらに後日、NHKの「プロフェッショナル」を見、また、奥様である安野モヨコさんの「還暦不行届」を読んで、空白の26年がさらに補完されました。

(2) 宇部新川駅(1回目)

映画を見終わって1ヶ月少しで、とにかくラストに実写で記録された、宇部新川駅に行きたいと思い立ち、航空チケットを取りました。金曜の仕事早く切り上げて羽田空港へ。夜暗くなってから到着した山口宇部空港から歩いて10分の草江駅に行き、ここから各停で宇部新川駅へ。宿泊はもちろん、映画に写り込んだ「ABホテル」です(笑)。

朝は早起きして、ホテルの窓から駅前広場を撮影し、例のベンチに座る。あとは、跨線橋となっている連絡通路の階段を走って登ってみる。発着チャイムを録音する。…と、ファンならするであろう、一通りのことをしてきました(ちなみに、同じようなことをしている若者が2人いました。おじさんとしてはちょっと恥ずかしかった)。

なお、このあとは盲腸線である長門本山駅への支線を含めた小野田線と宇部線を乗り潰して帰りました。



(3) 天竜浜名湖鉄道

先の宇部新川駅行から2年以上経ってから、掛川から新所原まで乗り鉄したとき、第三村のモデルとなった天竜二俣駅を通りました。時間の関係で降りられず、転車台見学ができなかったのですが、ちょうど同駅でエヴァラッピングの車輛とすれ違いを撮ることができました。映画中に映像が出てくる「新所原」駅票の写真を撮って終了。ここの鰻弁当は有名だったので食べましたが、蒸さない関西風で香ばしくてお勧めです。



(4) 宇部新川駅(2回目)

今年(2024年)の春、もう一度、宇部新川駅へ行ってきました。目的は2つ。前回行った後に、映画ポスターに描かれた踏切が近くにあるということを知って、ずっと、この写真を撮りたかったこと。そして、前回訪問の後に、宇部市近郊の常盤公園に設置されたロンギヌスの槍を見たかった、というのが理由です。

今回、鉄道の接続が悪く空港からは宇部新川駅へバスで行ったのですが、ベンチにまた座ってこよう、と思って、入場券を買ったら、駅の改札スタンプがエヴァの横顔でした。バスで行って良かった〜と思いました。なお、踏切は、駅から歩いて3分ぐらいのところであり、すぐにわかりました。3年越しの念願がかない、満足。



常盤公園はタクシーで行きましたが、ここはとても広く、入口で公園の地図を貰う際に「ロンギヌスの槍」の場所を教えてもらって目指します。さすがにエヴァンゲリオンが持つ実物大ではありませんでしたが、十分大きく迫力がありました。なでまわしてきました(笑)。

なお、偶然なのですが、公園の一角には機関車「D51の18号」が展示されていました。この車両、煙突とその後方の蒸気溜などが一体になった、いわゆる「ナメクジ」と呼ばれる初期型です。私は見るのが初めてで、とてもテンションが上がりました。犬も歩けば棒に当たります。



(5) 余談：「獺祭」

日本酒「獺祭」(だっさい)が第一作の「エヴァンゲリオン新劇場版：序」(2007年)に出ています。ミサトさんが、夕食の際に飲んでいました。「獺祭」は、山口の岩国で作られる人気酒で、今や知らない「酒飲み」はいないと思うのですが、当時はそこまで有名ではありませんでした。

上記映画を見た半年後ぐらいだったか、東京駅の地下コンコースにある「はせがわ酒店」で、旭酒造の方が来て「獺祭」の試飲をやっていました(同店は一度、コンコースから奥に入った場所に引っ越しましたが、現在は最初あった場所に戻っています。なので、ほぼ今と同じ場所)。試飲カップを配っておられた方(多分、社長さんとか部長さんとか偉い方だと思います)に「アニメのエヴァンゲリオンにお酒出ていましたね」と話しかけたら、「知っています。アニメ会社(つまりカラー?)から(映像として使いたいの)でラベルの画像データをいただけますか?と言われて、データを送っただけです。まだ、御礼も言っていません」とのことでした。確かに、エンディングの協力会社のリーガルラインに、旭酒造の名はありませんでした(UCCやローソンはあったのに)。庵野監督が純粋にこのお酒が好きで(もちろん、ご出身地の山口県のお酒ということもあるでしょう)映画に登場させたかと思うと、日本酒ファンとして嬉しく感じた覚えがあります。



<実物のラベルと劇中のラベル(©カラー)>

(了)